

# III. 歩行者系案内の方向性

1. 情報提供の体系化
2. 地域の実態や利用者ニーズへの対応

### III. 歩行者系案内の方向性

- ・高度経済成長時代の自動車中心社会からの転換
- ・急激な高齢化の進展
- ・ノーマライゼーションの理念の浸透
- ・国際化の進展
- ・観光立国への取組 …



歩行空間利用者の範囲・規模の拡がり

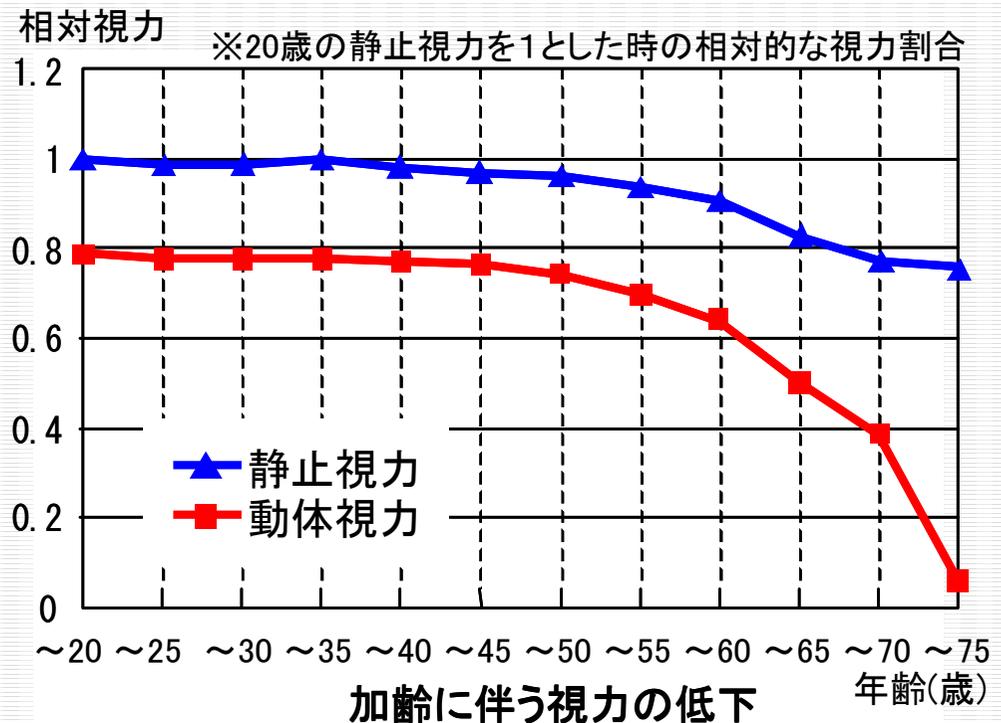
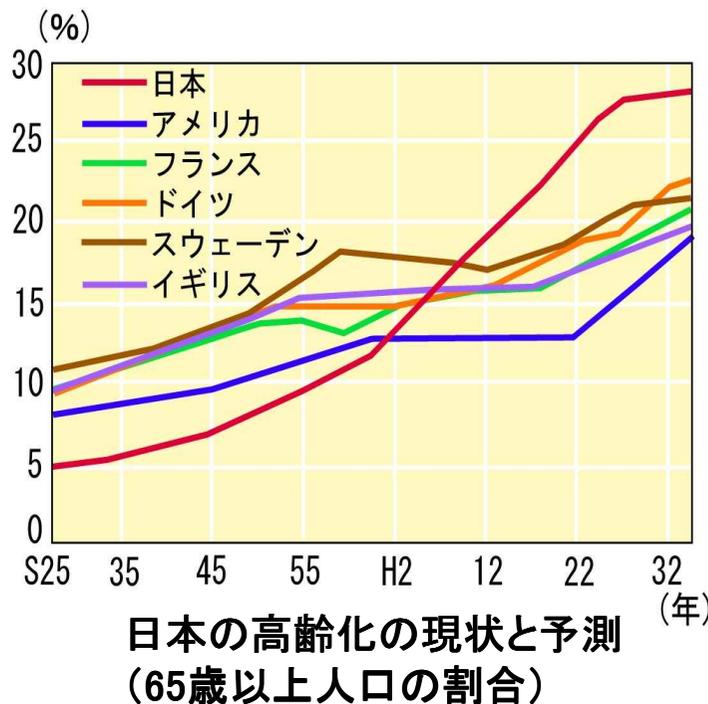
歩行者の多様な行動特性

空間的魅力を高める  
地域側の取組

ユーザー重視、顧客志向で案内を体系化

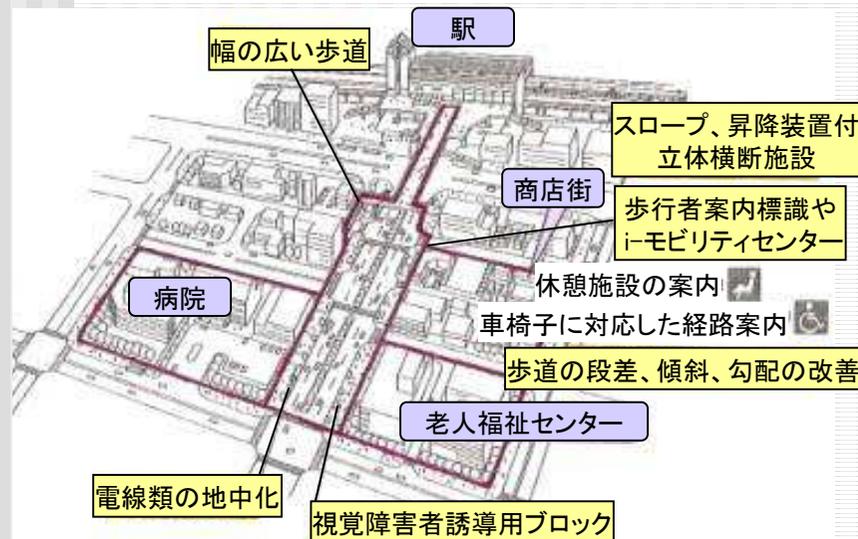
## 急速な高齢化の進行

- 日本の高齢化は諸外国より早く、平成27年には、国民の4人に1人が65歳以上。
- 高齢者の交通事故死者数は、歩行中が約半数。
- 高齢化による視力、反応時間等の身体機能の低下への配慮。



## ノーマライゼーションの理念の浸透

- 障害のある人も障害のない人もともに生活し、活動する社会を目指す「ノーマライゼーション」や、誰もが使いやすい施設等のデザインを目指す「ユニバーサルデザイン」の考え方が拡大。



バリアフリー歩行空間の概念図

### 【指標】歩行空間のバリアフリー化の推進

H19までに、1日当たりの平均利用者数が5,000人以上の旅客施設の周辺等のバリアフリー化された主な道路の割合を約5割まで向上

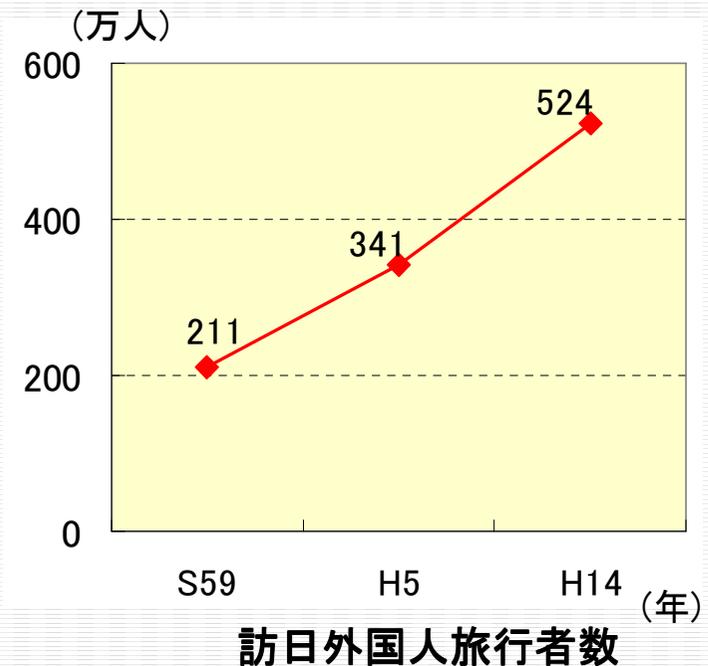
バリアフリー歩行空間の目標

## 国際化・観光立国の動向

- 訪日外国人旅行者数は、世界第33位の低い水準。
- 訪日外国人旅行者の増大を目指して、国を挙げて取り組む戦略的なビジット・ジャパン・キャンペーンを実施。
- H14の訪日外国人旅行者数は、過去最高を記録。

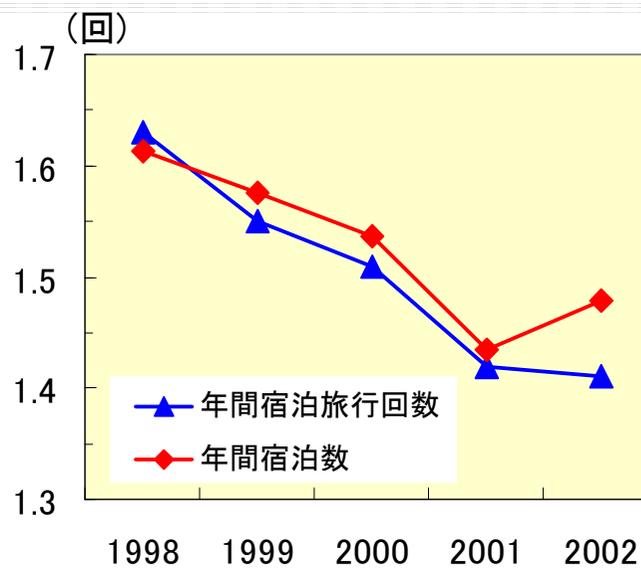


ビジット・ジャパン・キャンペーン

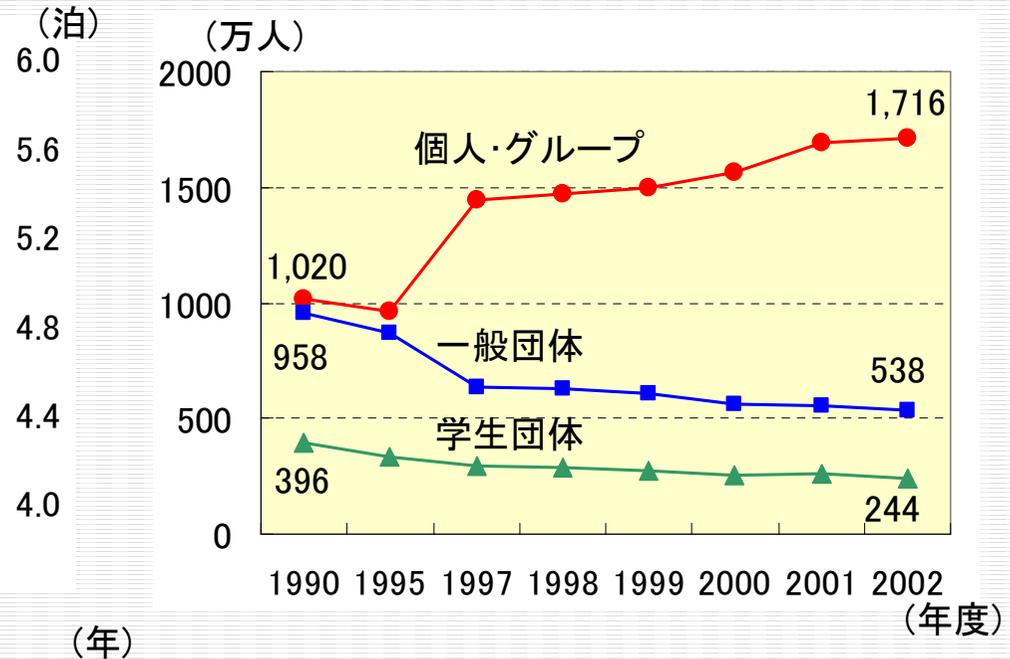


## 国内観光の動向

- 国内の宿泊観光旅行は近年減少傾向であったが、H14にほぼ横ばいに戻る。
- 国内旅行の主流は、年々、団体旅行から個人旅行に移行。



国内(観光)旅行の推移



旅行形態別／宿泊人数の推移  
(JTB宿泊白書2003より)

## 歩行者の多様な行動特性

- 話しながら、景色を見ながらのんびりと歩行
- 行ったことのない路地裏の散策
- 行きつ戻りつしながらウインドウショッピング
- バリアフリールートを使用しての移動
- 視覚障害者の歩行（視覚障害者用誘導ブロックの利用）



● 歩行空間のバリアフリー化の推進

- 交通バリアフリー法に基づき、バリアフリー化された歩行空間ネットワーク整備

● くらしのみちゾーン・トランジットモールの形成

- 通過交通の排除の徹底により、歩行者等の安全・快適な利用を優先
- 沿道と協働した緑化や無電柱化等による質の高い生活環境を創出
- 歩行者等と公共交通機関の利便性を高め、街の賑わいを創出

● あんしん歩行エリア

- 歩行者および自転車利用者の安全な通行確保を目的
- 住居系・商業系地区(全国で796箇所)を「あんしん歩行エリア」として指定し、都道府県公安委員会と道路管理者が連携して面的整備を実施。

● 自転車利用環境の整備

# 〇くらしのみちゾーン



【速度規制】  
ゾーン出入口に  
標識設置



【ハンプ】  
道路を凸部に舗装



【クランク】  
車の通行部分を  
ジグザグに蛇行

安全

- 〇通過交通の排除  
・一方通行、ハンプ、路側表示等



快適

- 〇ゆとりの創造  
・たまりスペース 等
- 〇美しい街並みの創出  
・無電柱化・緑化 等



【たまりスペース】



【無電柱化・緑化等  
により景観を向上】

【歩行空間のバリアフリー化】

- ・歩道の段差・傾斜・勾配の改善
- ・視覚障害者誘導用ブロックの設置
- ・透水性舗装、保水性舗装などの整備 等

【都市内歩行空間の例】



大阪市御堂筋



横浜市馬車道

【歴史的観光地の歩行空間の例】



天理市(山の辺の道)

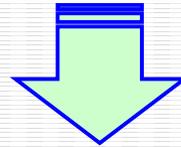


奈良市(東大寺二月堂への道)

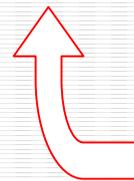
# 1. 情報提供の体系化

## (1) 情報内容の整理

- 社会の進展に伴い、街を形成する要素が多様化
- 歩行者の目標地は、より細かい施設類にも拡大

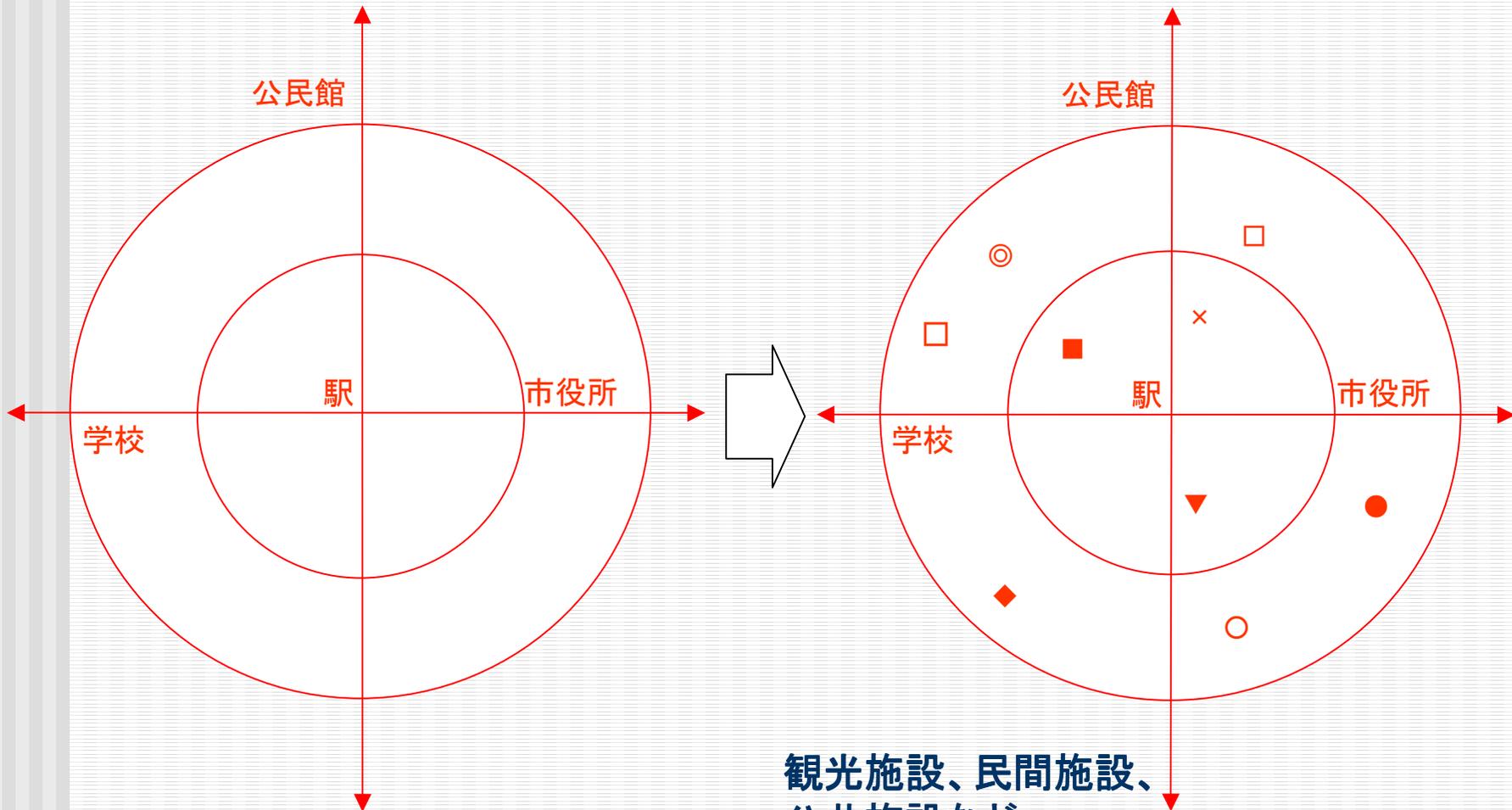


多くの目標地の中で、  
何(**what**)を選択して伝えるかを取捨選択



歩行者が「その地域で何の案内を求めているか」

# 都市構造の変化



観光施設、民間施設、  
公共施設など、  
目標地は多様化

## (2)「指示」・「同定」の手段の充実

「著名地点(114-B)」標識  
による「指示」



著名地点(114-B)

+

現位置「同定」のための案内標識  
の充実



主要地点(114の2-A)

### 主要地点標識(主要交差点)



### (3)「図解」の手段の活用

案内の基本は「指示」と「同定」

→街の複雑化により、「図解」の活用が有効



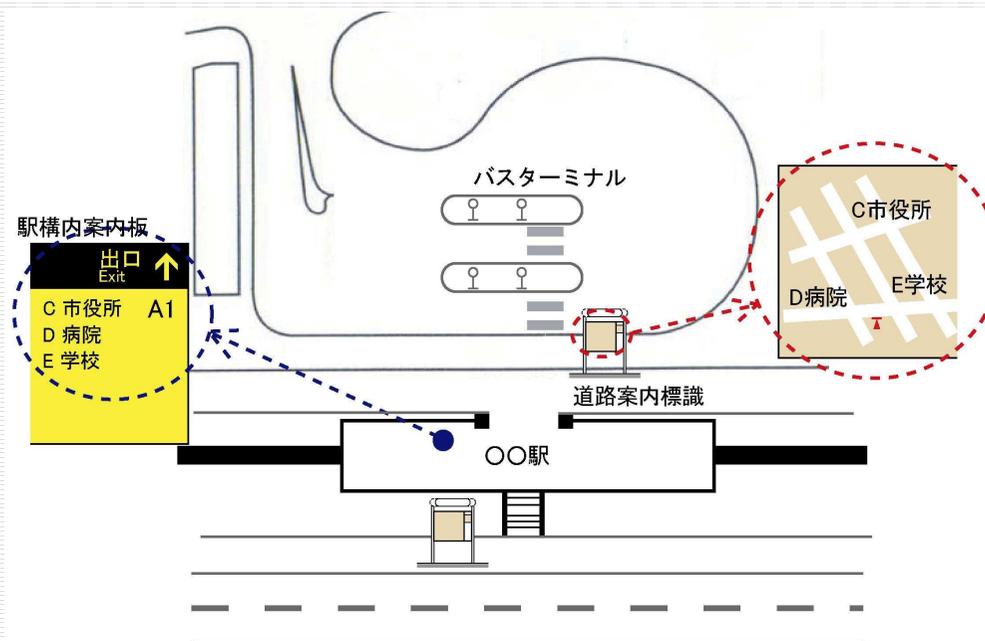
- すべての歩行者が目的地まで円滑に到達するため、「著名地点」標識に地図を附置し、情報を提供。
- 地図中に、主要な施設等の位置情報、バリアフリー経路などの表示が可能。
- ニーズに応じて板面や凡例に多言語を表記。

## 2. 地域の実態や利用者ニーズへの対応

- ・ 駅やバスターミナルは歩行者の主な発集点
- ・ 利用者ニーズは途切れることのない連続的な案内



- ・ 歩行者の動線等を考慮した設置箇所の検討が必要
- ・ 表示内容に関する事業者間の連携の検討が必要



## 歩行者を優先する道路・ゾーン表示の海外事例



歩行者空間の標識



ボンエルフ(オランダ)



ボンエルフ標識(カナダ)



ZONE20(イギリス)

出典: 久保田委員資料